

楊 夢 (ヨウ ユメ)

中国出身

日本女子大学 人間生活学研究科 博士課程

5 月と推理小説

私は、人に「なぜ犯罪心理学を分野として選んだか」と聞かれたら、必ず「昔から推理小説が好きなので、常に犯罪の原因を知りたいだから」と答えます。とはいえ、大学を卒業してから、もう何年かがきちんと座って、一日の時間をかけて一冊の小説を読む心境がなく、最近そう答えるとき、「もう読んでないのに…」と、恥ずかしくなりました。しかし、この 5 月から、スマホで動画を見ているときに、偶然に「新しい」推理小説の読み方を発見しました。それは、中国語で「有声書」で呼ばれ、声優が小説を読み上げたり、ラジオドラマの形式で改編したり、耳で「読む」ものです。私はずっと「有声書」のことを知っているが、たまに検索してみたら、こんなにたくさんな推理小説もあることを初めて知りました。私は、宝物を手に入れたかのように、推理小説の海原に浸りきっていました。

その後、朝起きて歯を磨くとき、ごはんを作るとき、午後授業のないとき、夜寝る前に、私はずっと音声小説に没頭して、1 か月間何冊の小説を「読み」ました。入門のときのアガサクリスティーから高校時代に夢中な東野圭吾、そして最近新しく気に入った三津田信三の本、古典推理小説の「再読」や新しい小説の「受講」、私はいろいろ楽しんで、推理小説と再度に出会いました。

それだけではなく、「聴く」をきっかけにして、本格の「読む」も始めました。聞いている外国の小説のほとんどは訳本なので、これらの小説はもともどんな書き様だろうかと、好奇心が湧いて、ついつい文庫本を買って読み始めました。縦書きで、知らない単語もあるので難しいところもありましたが、じっくり読むと、書く背景や作者の風格も少し感じられるようになって、読んでいるときに、探偵と一緒に謎から真実を見つけ、文字の中からその面白さを満喫しました。

推理小説に出会い、昔の推理を愛する自分に出会い、この 5 月、私は推理小説を掘り出す探偵です！

以上

